

## 4. 水害と治水事業の沿革

### 4-1 既往洪水の概要

網走川流域では、過去に以下に示す洪水が発生している。

表 4-1 既往の主要洪水の概要

洪水発生年月	気象要因	美幌地点流域 平均雨量 (mm/24h)	美幌地点 流量 (m <sup>3</sup> /s)	被害状況
大正11年 8月	台風	161	推定 1,200	被害家屋381戸、田畑浸水2,500ha
昭和7年8～9月	不明	61 (8/4～8/7) 93 (9/6～9/7)	不明	網走町で田畑浸水824町 家屋被害24戸
昭和10年 8月	台風	89	不明	家屋浸水176戸、田畑浸水1,233ha
昭和23年 8月	前線	69	不明	家屋浸水102戸、田畑浸水676ha
昭和36年 9月	台風18号	20	不明	氾濫面積 14,924ha
昭和37年 4月	融雪	-	110	被害家屋 177戸、氾濫面積 397ha
昭和37年 8月	台風10号	78	190	被害家屋4戸、農作物被害10,286ha
昭和50年 5月	低気圧	80	290	被害家屋63戸、氾濫面積4ha
昭和54年10月	台風20号	96	310	被害家屋89戸、氾濫面積795ha
昭和56年 8月	台風12号	62	110	氾濫面積615ha
平成4年 9月	台風17号	130	870	被害家屋322戸、氾濫面積9,585ha
平成13年 9月	台風15号	135	640	被害家屋1戸、氾濫面積1,124ha

注1)被害等は、「市町村史」(T11,S7,S10,S23)及び「北海道災害記録」による

注2)北海道災害記録による被害等は集計上、支川、内水被害を含む。網走市の被害は流域外も含む

注3)昭和37年4月洪水は、融雪による氾濫被害

#### 4-2 主な洪水の概要

主な水害は以下のとおりである。網走川の既往最大は大正11年8月洪水であり、

表 4-2 主な洪水の概要表 被害実態-1

水害	被害の概要
大正11年8月洪水	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8月18～19日頃より低気圧の発生頻発となり、次いで24日に至って台風が来襲し、この台風は24日朝伊豆半島の南端に達し、千葉県下を通過し、東海岸に沿って進み24日の新より25日にわたって、本道の南東海岸を過ぎ釧路根室の国境辺りを抜けて、オホーツク海に出て遠く北東方向に去った。</li> <li>・ 網走川流域においても、23日から降り続いた雨は、25日までに本岐で203.6mm、網走で198.7mmの大雨となり、25日朝から刻々と増水しその水高は3.8mに及ぶ大洪水となった。</li> </ul> <p>&lt;美幌町史&gt; 田畑の浸水女満別1,700ha、美幌800ha、家屋の浸水女満別160戸、美幌220戸、同流出1戸。</p> <p>&lt;美幌叢書&gt; 流出家屋1戸、浸水家屋市街地100戸、農家122戸、浸水田畑800ha、土砂堆積畑地50ha、荒蕪地30ha、大正橋・花見橋・豊島橋・笹尾橋等橋梁の流出10箇所。</p>
昭和10年8月洪水	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 西3号道路付近の網走川、美幌川合流点（花見橋から下流）で氾濫し、下流の28線付近の美幌川堤防を決壊して網走川右岸地区を奔流し、一帯を泥の海と化した。</li> </ul> <p>&lt;網走川治水史&gt; 流出家屋1戸、浸水家屋175戸、浸水反別1,232.6ha、橋梁決壊10箇所</p> <p>&lt;女満別町史&gt; 床上浸水家屋西女満別168戸、木禽178戸、田畑被害面積1,915町</p>

表 4-3 主な洪水の概要表 被害実態-2

水害	被害の概要
平成4年9月洪水	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道付近に停滞していた前線が活発となり。9月10日午後3時八丈島の東約410kmにあたった大型で強い台風17号は、勢力を保ちながらさらに北上を続け、9月12日0時には国後島付近を通過し、勢力が衰えぬままオホーツク海へ抜けた。</li> <li>・各流量観測所では戦後最大の流量水位を観測した。</li> <li>・外水氾濫が津別地区、各支川上流及び網走湖周辺低地で発生し、特に直轄区間の津別では屈曲した河道7箇所が越水して氾濫決壊し、蛇行部をショートカットした形で耕地を浸食し、収穫前の農作物が流失し打撃を受けた。</li> <li>・内水氾濫は有堤区間全川の低地で発生し、特に網走川と美幌川の合流点に囲まれている美幌町日甜地区周辺で浸水面積35ha、150戸の家屋が浸水被害にあった。</li> <li>・直轄区間全体での外水氾濫面積は628ha、内水氾濫面積660haとなった。</li> </ul>
平成13年9月洪水	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月10日から北海道に停滞していた秋雨前線が、台風15号の接近に伴って活動が活発になり雨が降り始めた、台風は11日午前9時頃に神奈川県鎌倉付近に上陸し、よるには再び宮古市付近から太平洋に進んだ。その後徐々に速度を上げて12日朝には釧路市の南東海上を通過して、午後3時に千島近海で温帯低気圧に変わった。これら、前線と台風により管内では3日間に渡って雨が降り網走で211mm等、各地で200mmを超える大雨を観測した。</li> <li>・網走湖では、水位が2.32mまで上昇し、警戒水位以上の継続時間が234時間も続いた。</li> <li>・網走湖畔住吉地区では7箇所です堤防基盤漏水が生じ、月の輪工により対策を行い本郷住吉地区合わせて47世帯215人に避難勧告がなされた。</li> </ul>

#### 4-3 治水事業の沿革

網走川の基本計画調査は、大正2年から大正7年までに河口から津別間40.3kmの測量調査を、また、大正3年から大正11年までに同区間40.0kmの設計調査を実施し、水位観測所は、大正2年から大正8年までに、河口、大曲、木禽、美幌、活汲、本岐の6ヶ所が設置され治水工事計画の基本調査は着々と進められていき、大正8年に至り網走湖より上流美幌36線に至る延長26kmの区間に対し、治水工事計画を立案した。しかしながら拓殖費財源の関係上着工の機運に至らなかった。

本格的な網走川水系の治水事業は、昭和9年から北海道第2期拓殖計画の一環として、大正11年8月洪水にかんがみ、本郷地点における計画高水流量を5万立方尺（約1,400m<sup>3</sup>/s）、美幌地点の計画高水流量を4万立方尺（約1,100m<sup>3</sup>/s）として美幌町市街部から網走湖流入地点までの区間について捷水路の開削、築堤等を実施した。

その後、昭和32年に計画を見直し、美幌における計画高水流量を約1,100m<sup>3</sup>/sから1,200m<sup>3</sup>/sにし、美幌から住吉までの区間において築堤、掘削等を実施した。昭和43年には住吉から網走市街部までの区間及び津別から美幌までの区間を加え、津別から河口までの計画を決定した。

網走川は昭和44年一級河川に指定され、昭和45年には昭和43年の総体計画を踏襲した工事実施基本計画を策定し、美幌基準点における基本高水のピーク流量を1,200m<sup>3</sup>/sとして、河道に配分することとした。

昭和50年洪水を契機に、昭和53年より下流部の特殊堤に着手した。その際、網走川の恵まれた河川環境を活用し、都市景観の中に調和させるために、河川緑地計画を策定し、環境に配慮した特殊堤を実施した。平成4年洪水を契機に、上流無堤区間の流下能力不足区間の解消を図るため、改修を実施中である。また、平成13年9月洪水を契機に網走湖の湖岸堤において堤防強化対策が進められている。

近年は網走湖の水質対策として、平成5年より水草の刈り取り、平成7年より湖底の浚渫等が実施され、平成16年6月に網走川水環境改善緊急行動計画（清流ルネッサンス）が策定され、現在実施中である。

砂防事業については、支川の上流部において北海道が平成2年から砂防堰堤等を整備している。



景観に考慮した護岸（下流部）

表 4-4 治水事業年譜

関連事業	年代	治水史
	1900 (M33)	網走川32線に官設渡船場設置
	1901 (M34)	北海道10年計画策定
北海道第1期拓殖計画 (明治43年～昭和元年)	1913 (T 2)	網走川河川調査着手
	1919 (T 8)	網走川治水計画樹立
北海道第2期拓殖計画 (昭和2年～昭和21年)	1927 (S 2)	網走川、常呂川、湧別川などの治水工事費計上
	1934 (S 9)	網走川第1期治水工事着手(昭和11年迄) 網走湖より上流本川河道切替掘削 網走川女満別治水工場設立
	1937 (S12)	網走川第2期治水工事着手(昭和21年迄) 美幌治水工場設立(女満別治水工場を廃止)
	1939 (S14)	美幌治水工場を網走川河川改修事業所と改称
戦後の空白時代 (昭和22年～昭和26年)	1947 (S22)	治水工事再開
	1948 (S23)	美幌川下流部(網走橋付近)浚渫工事着手
	1950 (S25)	北海道開発法の制定
	1951 (S26)	改修計画再検討のための調査開始
第1期北海道総合開発計画 (昭和27年～昭和37年)	1952 (S27)	網走川、湖上本流本郷右岸盛土
	1953 (S28)	網走新橋架替工事完成 昭和28年度以降改修総体計画策定
	1957 (S32)	網走川改修全体計画策定
第2期北海道総合開発計画 (昭和38年～昭和45年)	1960 (S35)	第二次治水五ヶ年計画 (昭和33年～昭和37年)
	1963 (S38)	昭和38年度以降改修総体計画策定
	1964 (S39)	治水橋、永久橋完成 水路(サラカオーマキン川)掘削
第3期北海道総合開発計画 (昭和46年～昭和55年)	1966 (S41)	新水路通水
	1968 (S43)	昭和43年度以降改修総体計画策定 美幌町周辺より網走湖にいたる築堤を概成、美和築堤に着手
	1969 (S44)	網走川1級河川に昇格 工事実施基本計画策定
第3期北海道総合開発計画 (昭和46年～昭和55年)	1972 (S47)	水質汚濁防止法による網走川の水質規制実施
	1973 (S48)	北見河川事務所発足(美幌改修事業所廃止)
	1974 (S49)	昭和47年度以降直轄河川改修計画承認
	1975 (S50)	網走川下流部浚渫着手
	1976 (S51)	網走川河畔公園完成 東幹線頭首工の完成
第3期北海道総合開発計画 (昭和46年～昭和55年)	1977 (S52)	第五次治水五ヶ年計画 (昭和52年～昭和56年)
	1977 (S52)	網走川東幹線頭首工改築完成 網走市街地区築堤促進、湖岸堤完成、美幌地区及び美和築堤を概成
	1982 (S57)	第六次治水五ヶ年計画 (昭和57年～昭和61年)
	1985 (S60)	網走川西幹線頭首工改築完了 住吉地区の掘削に着手 下流部特殊堤が新橋まで概成、美幌地区護岸を促進 呼人浦護岸着手(昭和61年完了)
	1987 (S62)	鏡橋下流右岸の修景護岸着手(昭和62年完了)
	1988 (S63)	新橋下流右岸の親水護岸着手(昭和63年完了)
	1989 (H 1)	網走川水系河川環境管理基本計画樹立 昭和62年度以降直轄河川改修計画策定
	1990 (H 2)	網走川、常呂川連合水防演習 鏡橋下流左岸、中央橋上流左岸の親水護岸着手 本郷地区の掘削に着手
	1991 (H 3)	網走湖水質保全対策検討委員会発足 美幌右岸AGS工事着手(平成10年完了)
	1992 (H 4)	下流部特殊堤が網走橋まで概成 津別町地区で既往最大洪水である9月洪水の災害復旧
第8次治水五ヶ年計画 (平成4年～平成8年)	1993 (H 5)	網走湖・網走川浄化対策事業着手 網走市において桜づつみモデル事業認定(平成6年完了) 岩富築堤着手 直轄河川環境整備事業として網走湖浄化事業が認められる
	1994 (H 6)	網走湖浄化事業として排泥地造成工事着手
	1995 (H 7)	網走川上流部岩富地区の河道掘削に着手 網走湖の女満別湾で試験浚渫に着手
	1996 (H 8)	活汲橋架替工事着手(平成11年完了)
	1997 (H 9)	河川法改正
	1998 (H10)	中央橋下流左岸築堤・掘削着手 網走湖の呼人浦で浚渫に着手
	1999 (H11)	網走川中央橋下流左岸が水辺ブラザ事業に認定
第9次治水七ヶ年計画 (平成9年～平成15年)	2002 (H14)	本郷・住吉地区で平成13年9月洪水の災害復旧工事(漏水対策)
	2003 (H15)	本郷・住吉地区で本格的な漏水対策に着手 美幌地区で光ファイバー整備に着手